

あさのは

平成28年4月20日発行

発行：長岡赤十字病院

長岡市千秋2丁目297-1

電話 0258-28-3600

ホームページアドレス

<http://www.nagaoka.jrc.or.jp/>

長岡赤十字病院健康だより

「あさのは文様」という麻の葉をデザインしたのがあります。麻は丈夫で縁起がよく、健康を願って、昔から私たちの身のまわりの模様として使われてきました。これをお読みになる皆様の健康を願い、「あさのは」と名づけてあります。



ウガンダ北部医療支援!! 活動報告 ー後編ー

一緒に派遣されたもう一人の看護師が、外科病棟で直接患者さんを看護しながらスタッフへの指導を行ったのに対し、私が行ったのは、新築後半年間も放置されていた手術室の立ち上げ、医療器具を清潔にする滅菌システムの導入と看護部長・師長を含めたスタッフへの教育指導です。医療器具の管理体制を改善することで院内感染を減らし、病院の質を向上させるのが私の任務でした。着任時、新手術室には手術台があるだけ。電気の配線も足りなければ手洗い場も使えず、物の配置も決まっていませんでした。自分たちでやろうという意思が全くなく、私の顔を見るたびに誰もが、「新しい手術室はいつになったら使えるのか？」と聞いてきます。医療器具は機械の度重なる故障や停電、人手不足で作業が間に合わず、手術や消毒ができない状況もしばしば。管理もずさんで、使用期限を過ぎたものが平気で使われていました。会議や勉強会の無断欠席、全員が集まるまで1時間以上待つのは日常茶飯事。ミスは素直に認めず、責任転嫁する者も少なくありませんでした。状況を改善するため、まずは人間関係を築くこと、それには彼らの仕事を知り、何が大変か理解することが必要だと考え、どんな仕事も一緒に行うことから始めました。たとえば手術室の掃除。専門の業者などいません。毎朝、床のモップがけとゴミ回収から始まります。トカゲや蛙にも遭遇しました。手術や消毒用のガーゼ作り。反物のガーゼを一枚ずつ規定の長さに切って折りたたみます。手術は骨折や腹部・産婦人科関連が毎日最低10件、大量の器具を一つ一つ手洗いするスタッフはたった二人。ガーゼや器具は蒸気を利用した機械で滅菌され、初めて手術や傷の消毒に使えるようになります。これでは器具の管理が行き届かないのも、まして新手術室にかまう余裕がないのも無理はありません。行動を共にして初めて、彼らが働いている環境の厳しさを身をもって知ることができました。

日々の業務や指導場面では、どんな状況でも彼らの立場で問題を理解し、できるようになったことはそれがどんなに小さな変化でも認め、次のステップへの動機につなげていきました。解決策を考える上で最も苦労したのは、彼らの意見を引き出し、継続可能なシンプルな方法にすることでした。日赤の事業終了後は、彼らの力だけでやり続けていかなければならないからです。(裏面へ続く)

試行錯誤を重ねた結果、医療器具点検の方法を確立し彼ら自身で管理できるようになりました。滅菌作業の環境も改善され、期限切れの器具が使用される割合が激減しました。問題に取り組む過程で彼らの自主性と責任感が高まり、仕事の確実性が向上したことが最高に嬉しい成果でした。手術室の立ち上げでは、最初は自分が行っていた物品の購入・搬入や棚の設計依頼に関する管理・技術部門との交渉を、師長のリーダーシップで実行されるようはたらきかけました。最終的には、師長とスタッフが話し合い、彼らの考えを活かした手術室にすることができました。新手術室で初めて手術が行われた日に私の心を満たしたのは、使命をひとつ果たせた安堵感でした。予算が少なく物も簡単に手に入らない中、機械の修理や棚作り、ペンキ塗りから物の移動まで、助けを求めればいつでもすぐに駆けつけてくれ、まさに手作りで手術室を完成させてくれた技術部門のスタッフは、一番のパートナーだったと言っても過言ではありません。

ウガンダは、イスラム過激派が活動するケニアや内戦の続くスーダンと国境を接しており、いつまた戦争の脅威にさらされるかわかりません。「看護師なのに看護ができない」。最初は葛藤しましたが、この病院の向上に努めることが地域全体の将来に貢献できると発想を転換できたとき、この任務に大きな意義を見出すことができました。私の活動に理解を示し支えてくれた、カロンゴ病院すべてのスタッフに心から感謝しています。

(国際救援・開発協力要員 オピヨ (旧姓：荒川))

当院の
医療技術職員
業務紹介Part10

臨床検査技師の業務紹介

その4 輸血部

輸血は出血や貧血、血小板減少、凝固因子低下などで不足した血液成分を補う治療法です。製剤には献血から製造される赤血球液、新鮮凍結血漿、濃厚血小板と自分の血液を採取、保存して手術時に使用する自己血があり、輸血部は血液センターへの発注、製剤の保管、患者への割り当て、各種検査、各部署への出庫そして輸血後処理など、輸血の一元管理を行っている部署です。

輸血に必要な血液型検査には、ABO以外にも多く存在します。輸血や妊娠によってそれらの血液型に対する抗体が出来る場合があります、その抗体に対する抗原を含む赤血球を輸血すると溶血(血球が壊される)を起こす事があります。その予防のために抗体の有無を調べる不規則抗体検査、赤血球製剤がその患者に適合しているか調べる交差適合試験(クロスマッチ)などの各種検査を行っています。

ABO血液型の違う赤血球を輸血すると激しい溶血を起こし、死に至る場合があります。そこで血液型は輸血時には別タイミングで2回検査が行われ、患者間違いのないシステムとしています。また出血性ショックで搬送されてきた場合、血液型検査も待てない緊急時は、どの血液型にも輸血可能なO型の赤血球(抗原を持たない)をクロスマッチなしで輸血し、救命を最優先しています。尚、凝固因子の補充のための新鮮凍結血漿や血小板輸血には緊急時はAB型の血漿(抗体を持たない)を輸血します。患者に輸血されるまでの各段階でダブルチェックを行い、また最終的に機器による認証を患者サイドで行うなど日々、安全な輸血の実施を病院全体で心がけております。(臨床検査技師 山崎)

お知らせ

当院は地域医療支援病院です。平成28年4月より受診時の費用が変わります。
詳しくは当院ホームページをご覧ください。